

11/3-9#32 私たちの信仰の創始者また完成者であるイエスをひたすら見つめる:Ⅰ「イエスを、ひたすら見つめていなさい(Looking away unto Jesus)」(ヘブル12:2a):ヘブル12:2 私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめていなさい。彼は…神の御座の右に座しておられるのです。A「ひたすら見つめていなさい」と訳されたギリシャ語は、他のあらゆる対象物から目を離し、わき目もふらずに見つめることを意味します。Bヘブル人信者たちは、彼らを取り巻く状況のすべての事柄から、彼らの古い宗教、ユダヤ教から、その迫害から、すべての地的な事柄から、目を離さなければなりません。それは、彼らが、今や天で神の御座の右に座しておられるイエスを、ひたすら見つめるためでした。1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の明確なかたちであって、彼の力ある言葉によって、万物を維持し担っておられます。そして、罪のきよめを成し終えてから、高き所の威光ある方の右に座されました。C私たちは天上のキリストを享受しようとするなら、地上のすべての事柄から目を離して、彼をひたすら見つめる必要があります。Dすばらしいイエス、天で御座に着き、栄光と尊貴を冠として与えられたこの方は、宇宙において最も引き寄せるものです。E私たちが彼以外のすべての事柄から目を離して、私たちの前に置かれているレースを、忍耐をもって走るの、彼の魅了する美しさに引き寄せられることによってです。12:1 こういうわけで、こんなにも大勢の証し人である雲に囲まれているのですから、…前に置かれているレースを、忍耐をもって走ろうではありませんか。Ⅱ.クリスチャン生活はレースです。救われたあらゆるクリスチャンはレースを走って、賞を勝ち取らなければなりません:1コリント9:24 あなたがたは知らないのですか? 競技場で走る者はみな走りますが、賞を受けるのはただ一人です。あなたがたは賞を得るために、このように走りなさい。A賞は一般的な意味での救いではなく、特別な意味での褒賞です。B使徒パウロはレースを走って、賞を勝ち取りました。1重荷とは、重いもの、重圧、妨げです。レースの走者は、あらゆる不必要な重いもの、あらゆる重荷となる重圧を脱ぎ捨てます。それは、彼らが何の妨げも受けずに、レースに勝つためです。2ヘブル12章における唯一のまといつく罪とは、故意の罪でした。それは、聖徒たちと共に集会することをやめることであり、神のエコノミーにおける新契約の道を捨てることであり、ユダヤ教に戻ることでした。3重荷となる重いものと、まといつく罪は、いずれもヘブル人信者た

ちを挫折させ、新契約の道においてイエスに従って天のレースを走るのを妨げました。4私たちは忍耐をもって走り、主が私たちの心を神の愛の中へと、またキリストの忍耐の中へと、もたらしてくださるよう求める必要があります:2テサロニケ3:5 主があなたがたの心を、神の愛の中へと、またキリストの忍耐の中へと、導いてくださいますように。aこの愛は神に対する私たちの愛であり、私たちの心の中に注がれた神の愛から出て来たものです。bこの忍耐は、私たちが享受し経験したキリストの忍耐をもって忍耐することです。Ⅲ.イエスは信仰の創始者、信仰の創設者、開始者、源、要因です:A信者たちの信仰は、実は彼ら自身の信仰ではなく、彼らの中へと入って彼らの信仰となったキリストです:1私たちの信じることは、キリストの引き寄せることに対する反応として、キリストを高く評価することです。ローマ10:17 ですから、信仰は聞くことから来るのであり、聞くことはキリストの言葉によるのです。2私たちの天然の人の中には信じる能力はありません。私たちは自分自身では信仰を持っていません。3私たちが救った信仰は、主から受けた尊い信仰、神の割り当てられた信仰です。2ペテロ1:1 イエス・キリストの奴隷また使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神また救い主、イエス・キリストの義の中で、私たちと共に同じ尊い信仰を割り当てられている人たちへ。4私たちがイエスをひたすら見つめているとき、命を与える霊としての彼は、彼ご自身を、彼の信じる要素を私たちに注入します。5この信仰は、私たち自身から出たものではなく、彼から出たものです。彼は信じる要素としての彼ご自身を私たちの中へと分け与えます。それは彼が私たちに代わって信じてくださるためです。B信仰は実体化する能力、「第六感」であり、まだ見ていない事柄や望んでいる事柄を実体化し、実体を与える感覚です:ヘブル11:1 さて信仰とは、望んでいる事柄を実体化することであり、見ていない事柄を確認することです。1実体化するとは、私たちが実質を実際化することができるようにする能力です。2私たちの五感の機能は、外側の世界の事柄を実体化し、客観的なすべてのものを私たちの中へと伝達して、私たちの主観的な経験とならせることです。3目が見て、耳が聞いて、鼻がかぐように、信仰、私たちの信仰の霊は、見えない霊的世界にあるすべてのものを、私たちに対して実体化する器官です:2コリント4:13 また、「私は信じた。それゆえに私は語った」と書いてあるとおり、同じ信仰の霊を持っているので、私たちも信じ、それゆえにまた語るのです。a私た

ちは、私たちの信仰の霊、私たちのミングリングされた霊を活用して、主について経験したものを信じ、語らなければなりません。**b**信仰は、聖霊とミングリングされた私たちの霊の中にあり、思いの中にはありません。疑いは、私たちの思いの中にあります。**4**私たちは見えるものや一時的なものに目をとめ、見つめるのではなく、見えないものや永遠のものに目をとめ、見つめます。**a**クリスチャン生活は、見えないものの生活です。**b**召会の墮落は、見えないものから見えるものへの墮落です。**c**主の回復は、彼の召会を見えるものから見えないものに回復することです。**5**信仰は、「神は...である」ことを信じることです。**6**信仰がなくては、神を喜ばせ、神を幸いにすることはできません。ヘブル11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。というのは、神に進み出る者は、「神はある」ことを信じ、彼を熱心に尋ね求める者たちに報いてくださる方であることを、信じるはずだからです。**7**「神に進み出る者は、『神はある[文字どおりには、神は...である]』ことを信じ...るはず...です」。**a**「神はある」ことを信じるとは、彼が私たちにとってすべてであることと、私たちが無であることを信じることです。**b**「神はある」ことを信じるとは、私たちがないことを暗示します。彼はあらゆることでただひとりの方、唯一の方でなければならず、私たちはあらゆることで無でなければなりません。11:5 信仰によって、エノクは死を見ないように移されました。神が彼を移してしまわれたので、彼は見えなくなりました。なぜなら、彼が移される前に、彼は神に喜ばれていたという証しを得たからです。**c**「神はある」ことを信じるとは、私たちの自己を否むことです。全宇宙において彼があり、私たちすべては無です。**d**主は次のように言っていたかのようです、「私は大いなる『私はある』である。私はある者である。あなたは、私があること、あなたはないことを信じなければならぬ」。**e**これが信仰です。「ああ、何という喜び。何も持たず、無であり、栄光の中の生けるキリスト以外何も見ず、地上で彼の権益のほか何も顧慮しないことの喜び」(J.N.ダービー)。**IV.イエスは、私たちの信仰の完成者、成就者、完結者です**。**A**私たちが絶えずイエスをひたすら見つめるとき、彼は、私たちが天のレースを走るのに必要とする信仰を成就し、完成します。**B**私たちが彼をひたすら見つめるとき、彼は天、命、力を私たちに供給し、彼であるすべてをもって私たちに伝達し、注入します。それは私たちが天のレースを走り、地上で天的な生活をすることができるためです。**C**私たちはみな、質において同じ信仰を

持っています。しかし、私たちが持つ信仰の量は、どれだけ私たちが生ける神と接触して、彼が私たちの中で増し加わったかにかかっています。**1**進展段階の信仰は、私たちが三一の神と接触することからやって来ます。彼は、私たちの中で信仰です。**2**このような信仰を受ける道は、主を呼び求め、主に祈り、主の御言を祈り読みすることによって、その信仰の源、主、手順を経て究極的に完成された神と接触することです。4:2 というのは、彼らに宣べ伝えられたと同じように、私たちにも福音が宣べ伝えられているからです。ところが、その聞いた言は、彼らにとって益となりませんでした。それが聞いた者たちの中で、信仰と混ざり合わされなかったからです。2テモテ2:22 ただし、あなたは若い時の欲から逃れなさい。そして純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、義、信仰、愛、平和を追い求めなさい。**3**私たちが彼と接触するとき、彼は私たちの内側であふれ流れており、私たちの間には相互の信仰があります。私たちは、互いの信仰によって励まされます。**D**私たちの再生された霊、私たちの信仰の霊は、サタンが組織化し強奪した世に打ち勝つ勝利です。**E**抑えつけることのできない無限の信仰の偉大な力によって、多くの人は動機づけられて、主のために苦難を受け、命の危険を冒し、勝利を得る遣わされた者また殉教者となって、信仰の中にある神の永遠のエコノミーを遂行します。**証**私は青少年地区で奉仕をしていますが、主日集会でよく青少年たちが集中していなかったり、注意しても話を聞いてくれなかったりした時に、自分もそのことで気を取られてしまい、主を享受できないことがありました。しかし、主に感謝します。ある時に、私は自分の中には「青少年はこうでなければならぬ」という律法があり、またそれによって主ご自身から、そして主の享受から遠ざけられていることを照らされました。私は主に罪を告白しました、「主イエスよ、私が自分の律法で人を裁いたことを赦してください。心をあなたに向けます。あなただけを見つめます」。このように祈った後、内側の聖霊の流れが戻り、自分が主を享受できただけでなく、周りの兄弟姉妹を霊の中で導き、彼らにキリストを供給することができました。**祈り**おお主イエスよ、職場環境、子供の教育などの他のあらゆるものから目を離して、信仰の創始者また完成者であるあなたをひたすら見つめます。この信仰は、私自身から出たものではなく、あなたから分与されるものだからです。私はあらゆることで無にすぎないことを知り、ただひとりの方、唯一の方であるあなたを信じます。